



気付き、考え、やり抜く東中生

校長 赤松 弘一



今年5月16日に近畿地方が梅雨入りしました。これは平年より21日も早く、統計開始以来最も早いそうです。まもなく学校周辺の水田にも水が張られ、田植えが始まります。水面に空が映って景色が急に明るくなる、この時期の魚住の風景が好きです。18日の朝には学校の東の森の方から「特許許可局！」という初夏を告げるホトトギスの鳴き声が聞こえてきました。コロナウイルスの脅威はなかなか収まりませんが、自然はそんなこととは無関係に季節の移ろいを繰り返しています。

そんな中、18日に令和3年度の生徒総会が行われました。体育館で密になることを避けて、各教室において放送とタブレットを使って行われました。春休みから準備を進めてきた40期の生徒会執行部役員の皆さん、担当の先生方、ご苦労様でした。

開会のあいさつでお話ししましたが、25年前に私が勤めていた時は15期生が生徒会を担っていました。「気付き、考え、やり抜く」というスローガンや、生徒会通信

の「Build up」はその頃から引き継がれています。学校には長い伝統がありますが、

今の東中をつくっているのは間違いなく532名の在校生の皆さんと先生です。これまで先輩方が築いた伝統の良いところは引継ぎ、新しいことに挑戦し、築き上げて（ビルドアップ）後輩に伝えていきましょう。

生徒総会は、みんなが意見を持ち寄り話し合っ
て協議し、よりよい学校を築く営みです。これは選挙で選ばれた代表が、様々な事柄を協議して決めていくという議会制民主主義の基本です。生徒総会はこの民主主義制度を学ぶ場です。皆さんは18歳になると投票権



放送室の執行部

を得て、国や地方自治体の選挙に投票できます。皆さんはその時しっかり自分の意志を持ち、選挙権を行使して社会を良くしていくた

めにふさわしい代表者（議員）を選ぶ必要があります。しかしながら最近の選挙では投票に行かない人が多いのが残念です。平成の時代になってから、国政選挙でも投票率が50パーセントを切ることがあり、特に若い世代ほど投票率が低くなっています。

「あまり興味がない、よくわからない、自分の一票では変わらない」そんな思いがあるのでしょうか。海外に目を転ざると、一部の権力を持った人間が民主主義を弾圧して、自分の都合の良いように法律を変えてしまう国があります。人々が自分の思ったことを言えない国があります。日本もかつてそんな暗く怖い時代がありました。皆さんには今ある民主主義や選挙権の大切さをしっかり学んでほしいと思います。興味がないと言って人任せにしているのは、気が付いた時にはそのような暗い時代に戻ってしまうかもしれないのです。

未来を価値あるものにするために、「自分が生きている世界や日本のことに興味を持ち、しっかりその仕組みを学び、正しく判断をする力と考えを発信する力を身につける」ことが大切です。学校はそのような力を伸ばすための学びの場なのです。